

### 令和7年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 心豊かにたくましく自ら学び人となつがる小野っ子の育成

目指す子どもの姿 自分の可能性を信じ、他者と協力し、課題を解決できる子どもの育成

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市立小野小学校  
学 校 長 山 本 司  
研究主体(管理職、学校教育改革推進委員を中心とした学力向上委員会)

前年度			継続性	4月 (※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正)			2～3月 年度末評価	
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
・課題解決に必要な情報を関連付ける力の育成 (全国学力・学習状況調査)	国語：○「知識及び技能」で、とくに「情報の扱いに関する事項」の領域において、全国平均を12.5ポイント上回り、正答率100%となった。 ◆「思考力、判断力、表現力等」の領域の「話すこと・聞くこと」について、正答率が全国平均を下回った。 算数：○「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域で、全校平均を上回った。とくに「図形」については15ポイント上回り、正答率81.3%であった。 ○「知識・技能」の評価の観点では正答率80.6%で、よく理解できていた。 ◆「数と計算」領域で、正答率が全国平均を下回った。	B	・課題解決に必要な、「複数」の情報を「関連付ける」力の育成 (b・d・e)	・全国学力・学習状況調査の平均正答率で、到達度の目安となる全国平均正答率を上回る。	・フリートークによる授業を展開し、「書くこと」「話すこと」を授業の中に取り入れて、自分の考えを持ち、友達の見解と似ているところや違うところを比べながら聞く等の活動を積極的に行う。 ・自分の考えを書く、質問や付け足しをして話し合いをする、など、言語活動の活性化によって、一人ひとりの理解を深める。 ・ガイド学習を展開し、自分の考えをノートや黒板、iPadを使って発表したり、図や表を使って説明したりする活動を積極的に行う。 ・題意把握、自力解決、集団解決において資料やデータ、具体物や半具体物、絵や図などを活用した活動を通して理解を深める。	国語 ○◆「思考力、判断力、表現力等」の領域の「話すこと・聞くこと」に関する問題(話題を決め集めた材料を分類しながら伝え合う内容を検討する)では、全国平均を上回っている。それに対して、話し合いのメモを分析する問題(話し合いの記録の書き表し方)では、情報と情報との関係付けの仕方や図や語句を結びつけて考えることに課題がある。 ◆「読むこと」に関する内容では、目的に応じて文書と図表などを結びつけながら必要な情報を見つけることに課題がある。 算数 ○図形の領域「角の大きさ」や「図形を分割して面積を求める」問題では全国平均に近い正答率であった。 ◆「数と計算」「データの活用」に課題がある。	B	
・課題解決に必要な情報を関連付ける力の育成 (定期テスト・単元テスト)	○年度初めの学力テストで、各児童の学力の把握を行い、結果を授業改善、個別支援に活かすことができた。 ○漢字ドリルを活用した学習、家庭学習や朝学習でドリルパーク(ミライシード)を活用した取り組みを進めていることが成果となって表れた。	A	・問題解決型の授業構成を中心とした探求の過程を大切に授業改善 (b・g)	・個別学習、補充学習等により、確実な定着を図り、単元テスト等70%を目指す。 ・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの結果を取り入れ、研究目標の成果を数値の向上で見取る。	・年度初めの学力テスト等で、各児童の学力の把握を行い、結果を授業改善、個別支援に活かす。 ・ミライシードを活用、朝学習でドリルパークの取り組みを定着させると共に、家庭学習と連携を図る。 ・各教科で資料を提示したり、データをもとに話し合ったりする活動にタブレット端末を活用し、情報の収集、整理、分析等の技能の伸長を図る。 ・フリートーク、ガイド学習の授業研究に取り組み、子どもたちに付けたい力や授業のポイントを交流し、共有することで授業改善を進める。	○漢字ドリル、計算ドリルの紙媒体とドリルパーク(ICT機器)の併用により、基礎学力の定着が進んだ。 ○年度初めの学力テスト等で、各児童の学力の把握を行い、授業の進捗の調整や個別支援に活かすことができた。 ○単元テストでは、平均78%を達成することができた。 ◆単元によっては、達成できていない内容があることや個人によっても到達度に差がある。 ○本校の研究(フリートーク)は、①対話が必要となる課題設定②対話ができる雰囲気③対話する力④対話を展開する方法に取り組んでいる。その成果が、主体的な児童の学びにつながっている。	A	
・問題解決型の授業構成を中心とした探求の過程を大切に授業改善	○質問紙でも、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することには前向きに取り組んでいるという結果となった。 ○今後も、タブレット端末を活用した協働的な学習の充実を図り、情報の収集、整理、活用等を授業の中に位置付けた取り組みを進めていく。	A	・ICTを最大限に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 (c・d・e・f)	・全国学力・学習状況調査の質問紙、学校評価の児童アンケートの「ICT機器の活用」についての結果において、昨年度と同程度、あるいは上回る。	・各教科で資料を提示したり、データをもとに話し合ったりする活動にタブレット端末を活用し、情報の収集、整理、分析等の技能の伸長を図る。 ・タブレット端末を活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。	○子どもたちが体験したり調べたりしたことをICT機器を活用しながらまとめる学習経験が増えてきた。また、それをクラス内や下級生、全校生に伝える場も増えてきた。児童アンケートの項目にある「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」に対して96%の児童が肯定的な評価をしており、その効果を実感している。 ◆ICT機器の活用では、「まとめる」「表現する」ことができるようになってきた。今後は、個人の考えを他者との協働的な学びにより深化できる方法についても、職員研修などで共有しながら取り組んでいく。	B	
・「主体的に学習に取り組む、自分の考えを表現できる子の育成～『フリートーク』を位置づけた授業づくりを通して～」というテーマに沿って、活用を位置づけた研究の推進	○フリートークによる授業を展開し、「書くこと」「話すこと」を授業の中に取り入れて、自分の考えを持つ等の活動を積極的に行うことで、「伝えたいことを明確にして書く」等の力を伸ばすことができた。	A	・家庭における学習習慣の確立 (c・f) ・地域人材を活用した授業づくり	・学校だより、学級通信、学校メール等で積極的に情報を発信し、保護者アンケートで内容の評価、検討を行う。 ・家庭学習の課題について、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」等で具体例を示しながら、家庭学習、読書習慣の定着を図り、学校評価アンケートによる評価結果の向上を目指す。	・年間計画に位置付けた保護者参加行事の設定、各教科や総合学習における地域人材の活用、学校運営協議会による学校評価の連携を進める。 ・家庭学習の音読カードや、朝学習のドリルパーク(ミライシード)を活用した取り組みを進め、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」を活用した家庭学習との連携を図る。	○今年度は、家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の内容の一部である「音読学習(音読カード)」について学校全体で内容を見直した。発達段階に応じて「つけたい力」を明確にした評価項目に変更し保護者評価を取り入れながら、家庭との連携を図ることができた。 ○大目踊り、防災学習、書道教室、乗馬体験、高齢者施設などでは地域の方から学ぶことができた。また、環境体験学習では地域の環境について、有馬富士自然学習センターの方と連携し、専門的な視点からも考え、学ぶことができた。 ◆さらに、地域人材活用の環境整備を整えていく。	C	
・家庭における学習習慣の確立	◆各教科や総合学習における地域人材の活用について、コーディネーター、窓口、さらには学校運営協議会の協力体制等、地域人材活用の連携体制を整備していく必要がある。	C	・基礎学力やVUCAな時代を生きていくために必要な学力向上に向けた小・中連携の推進 (a・b・d)	・交流会、連絡会、担当者会等を定期的開催し、回数や内容についての検証、検討を行う。	・各校児童の交流、合同での行事開催、職員相互の授業参観、合同研修会を通じて情報を交流し、児童生徒理解、教育課題の共有を進める。家庭学習や英語学習の課題に取り組む。	○1,2年生は、ありまふじ幼稚園との交流。3,4年生は、年間を通して母子小学校と学習発表などを通して、交流している。また、5,6年生は、自然学校、修学旅行、4校交流などを通して、上野台中学校区の学校間で交流を図っている。 ◆引き続き、児童間の交流とともに教職員間の交流を進め児童生徒理解や教育課題の共有を通して円滑な移行に取り組んでいく。	A	
・学力向上に向けた小・中連携の推進	○学力・学習状況調査の中学校区での合同分析を行い、安心・安定した学校生活、各校の学習の取組内容、家庭生活の変化等について、さらに課題についても共有を進めることができた。	A						

○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価  
A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成  
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず